

## 平成 28 年度通常(第 1 回)理事会議事録

日 時： 平成 28 年 6 月 18 日（土） 15：30～16：30

場 所： 岸記念体育館 1 階 101 会議室

出席理事：(敬称略、順不同)

河野博文、中川千鶴子、桑原啓三、鈴木修、斎藤渉、坂谷定生、中澤信夫、川北達也、天辻康裕、富田三和子、相澤孝司、菊池邦仁、末木創造、平井昭光、森信和、大西治夫、中村和哉、馬場益弘、井川史朗、黒川重男、岡村勝美、宇都光伸

以上 22 名

出席監事：齊藤威、児玉萬平、上野保

以上 3 名

オブザーバー：安藤淳総務委員長、安藤正雄事業開発委員長、芝田崇行環境委員長、川上宏レース委員長、増田開ルール委員長、戸張房子国際委員長、大村雅一事務局長、小山泰彦オリンピック準備委員会副委員長、永井真美環境委員、広田喜世人 ORC 計測委員、中里英一広報委員、小菅寧子アスリート委員

### 議事の経過及び結果

(定足数の確認)

理事 27 名中、出席者 22 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

(議長による開会宣言)

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、平成 28 年度通常（第 1 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を鈴木修専務理事に委任した。

(議事録署名人)

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、相澤孝司、平井昭光の両理事が任命された。

河野会長から、重要な案件につき、議論をお願いしたいとの挨拶があった。

### <審議事項>

#### 1) 平成 28・29 年度会長・副会長・専務理事・常務理事の選任について

定款第 22 条 2 項に基づいて、平成 28・29 年度会長・副会長・専務理事・常務理事の互選をした。会長は河野博文氏（再任）、副会長は植松眞氏（再任）、中川千鶴子（再任）、桑原啓三（新任）、専務理事は鈴木修氏（再任）、常務理事は坂谷定生氏（再任）、斎藤渉氏（再任）と満場一致で決定した。

## 2) 平成 28・29 年度 JSAF 顧問・参与・委員長・最高審判委員・評議員選定委員

鈴木専務理事から資料に基づき、平成 28・29 年度 JSAF 顧問・参与・委員長・最高審判委員・評議員選定委員について説明があった。

平成 28・29 年度の顧問は、小田切満寿雄氏、戸田邦司氏、秋山雄治氏、森山雄一の 4 名、参与は、大谷たかを氏、鈴木保夫氏、青山篤氏、小山泰彦氏の 4 名である。定款第 28 条に基づき、理事会の同意を得て、会長が委嘱する。

各委員会委員長は、安藤淳総務委員長氏、斎藤渉財政委員長、安藤正雄事業開発委員長、柳澤康信広報委員長、芝田崇行環境委員長、富田三和子レディース委員長、増田開ルール委員長、川上宏レース委員長、名方俊介 ODC 計測委員長、戸張房子国際委員長、山川雅之医事・科学委員長、棚橋善克ドーピング裁定委員長、川北達也普及指導委員長、末木創造国体委員長、斎藤渉オリンピック強化委員長、中村公俊ジュニアユース・アカデミー委員長、中澤信夫キールボート強化委員長、河野博文オリンピック準備委員長、植松眞外洋常任委員長、吉田豊外洋計測委員長、大坪明外洋安全委員長、植松眞アメリカズカップ委員長とする。定款 38 条に基づき、理事会の同意を得て会長が委嘱する。

最高審判委員会委員は、篠田陽史氏、大谷たかお氏、青山篤氏、秋元和子氏の 4 名とする。定款第 41 条に基づき、会長が委嘱する。評議員選定委員会委員は、元山澄雄氏（外部委員）、高木伸學氏（外部委員）の 2 名は定款第 12 条 3 項に基づき、理事会において選任する。他の評議員会で選任される杉山嘉尚氏、非改選の児玉萬平氏（監事委員）、非改選の大村雅一氏（事務局長）の 3 名は決定済であるとの発言があった。

満場一致で承認された。

## 3) 平成 28 年度第 1 次補正予算（案）

斎藤常務理事から資料に基づき、平成 28 年度第 1 次補正予算（案）について説明があった。

平成 28 年度当初予算策定後に確定した収支および見込金額が変更となる収支を反映するため、第 1 次補正予算案を策定した。主な変更点は、①管理費・その他では、日建レンタコムによる全日本女子学生選手権支援が例年通り決定したので、協賛金収入 7,000 千円、委託費支出 7,000 千円を計上した。消費税納付額の増額が予想されるため、租税公課を増額計上した。②普及指導委員会は、国際的スポーツ人材養成委託事業が決定したので、委託事業収支 5,552 千円を計上した。本年度は磯部君江氏を IF 中心に約半年間派遣する。また、日本財団助成金が決定したので、助成金収入 30,000 千円、負担金収入 7,500 千円、事業支出 37,500 千円を計上した。「海と日本プロジェクト」事業に協力する形で、各地でセーリングスポーツの楽しさを味わってもらう事業を実施するものである。③東京オリンピック準備委員会は、決定した協賛金収入 35,000 千円と、増加する事業支出 16,300 千円を計上した。なお、委員会収支差額 26,830 千円については、東京五輪準備特

別積立に積立てることとした。④制艇プロジェクトは、5月末入金の制式艇配布事業への寄付金収入 8,000 千円について、会計基準により制艇プロジェクト寄付金収入 8,000 千円、制艇積立取得支出 8,000 千円、制艇積立取崩収入 8,856 千円（減価償却費相当額）を計上した。

以上の結果、総合計では、収入合計 496,808 千円、支出合計 487,709 千円、当期収支差額 9,099 千円となった。なお、当初予算の黒字計上額 443 千円と比較して大幅増額となったが、これは上記制艇プロジェクトの 8,856 千円が加算されたことによるもので、その分を差し引くと実質は 243 千円の黒字にすぎず、事業収支として均衡の状態は変更ないと発言があった。

満場一致で承認された。

#### 4) アスリート委員会規程制定ならびに委員長人事の件

安藤総務委員長から資料に基づき、アスリート委員会規程制定ならびに委員長人事について報告があった。

JSAF アスリート委員会規程の制定ならびに委員会人事は、委員長に関一人氏、副委員長に重由美子氏、事務局長に浜崎栄一郎氏とする。本理事会からアスリート委員会委員長が陪席、次年度評議員会において、アスリート委員長が理事に選任された後は、理事として理事会へ出席する。但し、今回、関一人氏は会長推薦で理事に就任しているとの発言があった。

森理事から、副委員長は委員会規程第 5 条に含まれるのかとの質問があった。

天辻理事から、委員会予算措置は不要かとの質問があった。

安藤委員長から、JSAF 運用規程同様として規定している。また、必要経費も委員会で検討していただくとの回答があった。

河野会長から、2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けての種目／艇種の見直しについては、アスリートファーストで進めていただき、アスリートの立場で意見を具申していただきたい旨、関委員長に依頼しているとの回答があった。

満場一致で承認された。

#### 5) JSAF 内に障がい者セーリングに関する World Sailing からの窓口組織を設置する件

安藤総務委員長から資料に基づき、JSAF 内に障がい者セーリングに関する World Sailing からの窓口組織を設置する件について報告があった。

平成 26 年 11 月に国際セーリング連盟と国際障害者セーリング連盟が合併したことに伴い、平成 27 年 10 月に障害者セーリングも包括する新たな組織である World Sailing

から JSAF ならびに日本障害者セーリング協会に対し、平成 28 年 12 月までに両組織が合併するよう要請を受けた。JSAF として、World Sailing の意向を踏まえ、JSAF 内に障害者セーリングに関する対外的及び当連盟内関係団体間の連絡、調整を任務とする組織・機能を JSAF 運営規則に基づき設置するものである。名称は、障がい者セーリング推進委員会とする。

今後の方針としては、World Sailing 及びその他の海外組織との障がい者セーリングに関する事項の連絡・調整、国内における障がい者セーリングに関する事項の連絡・調整、障がい者セーリングに関する JSAF 関係委員会との連絡・調整とする。委員会メンバー(選出母体)は、JSAF 専務理事(障がい者セーリング管掌)、日本障がい者セーリング協会、日本視覚障がい者セーリング協会、日本ハンザクラス協会、その他、障がい者セーリング活動、支援を行っている JSAF 加盟・特別加盟団体で、事務局長に高間信行氏(日本障がい者セーリング協会副会長)、事務局次長に秋山淳氏(日本視覚障がい者セーリング協会)ならびに安藤正雄氏(日本ハンザクラス協会副会長)とする。JSAF 組織図上の位置づけは、「障がい者セーリング普及強化推進グループ」を新設して、同委員会を配置するとの発言があった。

満場一致で承認された。

## <報告事項>

### 1) オリンピック強化委員会報告

斎藤オリ強化委員長から、第 31 回オリンピック競技大会(2016 リオデジャネイロ)について報告があった。リオ五輪目標は、メダル 2 個、入賞 2 種目としている。高い目標であるが、可能性のある目標である。選手・役員ともに、残る期間、全力を挙げて取り組んでいくとの発言があった。

### 2) 東京オリンピック・パラリンピック準備委員会報告

鈴木専務理事から資料に基づき、東京 2020 オリンピック競技大会国内競技団体協議会「NF 協議会」設置について報告があった。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催の準備及び運営等について、国内競技団体(NF)と組織委員会とで十分な意見交換等を行い、相互に理解を深め、大会開催の成功に向けて連携を図っていくことを目的としている。全体会を年 2~3 回程度、分科会を概ね年 6 回程度開催予定であるとの発言があった。

### 3) ルイ・ヴィトン・アメリカズカップ・ワールドシリーズ福岡開催について

大村事務局長から資料に基づき、ルイ・ヴィトン・アメリカズカップ・ワールドシリーズ福岡開催について報告があった。

JSAF、福岡市、ソフトバンクグループは、2017年に開催される第35回アメリカズカップの予選である「ルイ・ヴィトン・アメリカズカップ・ワールドシリーズ」の第9戦目として、福岡大会を2016年11月18～20日に福岡市地行浜で開催する。アジアで開催するのは、1851年から開催されているアメリカズカップの歴史上初めてであるとの発言があった。

岡村理事から、6月10～12日開催された第6戦シカゴ大会の視察を踏まえて、小戸ヨットハーバーをベースキャンプとして、ソフトバンクグループ、福岡県連で福岡大会の準備を進めている。11月20日最終戦はプロ野球のソフトバンクチームの優勝後のパレードでは数十万人の規模とするようだとの発言があった。

#### 4) レース委員会報告

川上レース委員長から資料に基づき、レース委員会報告があった。

平成28・29年度IRO候補者推薦委員会の構成について、JSAFレース委員会は、World Sailingの認定するインターナショナル・レースオフィサー（IRO）の資格認定申請を行おうとする者について、レース委員会の小委員会であるIRO候補者推薦委員会を設置している。今期の委員構成は8名の推薦委員会委員を人選した。また、2016年度JSAF公認申請等進捗状況一覧（平成28年6月11日現在）について、10件承認、10件申請中との発言があった。

#### 5) ルール委員会報告

増田ルール委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。

①平成28・29年度IJ/IU候補推薦委員会の構成について、JSAFルール委員会は、World Sailingの認定するインターナショナル・ジャッジ（IJ）ならびにインターナショナル・アンパイヤ（IU）の資格認定申請を行おうとする者について、IJ/IU候補者推薦委員会を設置している。今期の委員構成は8名の推薦委員会委員を人選した。

②平成28年度第68回関東高等学校ヨット競技大会兼第53回全国高等学校ヨット選手権大会予選ならびに第63回東海高等学校総合体育大会ヨット競技大会兼第53回全国高等学校ヨット選手権大会予選の2大会につき、主催団体よりセーリング競技規則70.5(a)並びに日本セーリング連盟規程4.1に基づき、上告の権利を否認することについて申請があり、審査の結果、承認した。

③7月17日～19日、World Sailing International Judging Seminarは、参加者24名（海外参加9名）となったとの発言があった。

#### 6) 2017-2020年度 World Sailing 委員の推薦について

戸張国際委員長から資料に基づき、2017-2020年度 World Sailing 委員の推薦について報告があった。

2017-2020 年度 World Sailing 委員について、Council に大谷たかを氏、Development & Youth Committee-Regional Games Sub-Committee に柴沼克己氏（新規兼任）、Para World Sailing Committee に須藤正和氏、Equipment Committee に川田貴章氏（新規）、Events Committee に大谷たかを氏、Oceanic & Offshore Committee に小林昇氏、Race Officials Committee の IJ Sub Committee に増田開氏（新規）、IU Sub Committee に田中正昭氏、Racing Rules Committee に柴沼克己氏を 8 月初旬までに MNA（JSAF）から推薦する。

また、World Sailing 常任委員会からの推薦である Commissions appointed by Executive へ MNA（JSAF）から推薦はできないが、Coaches に斉藤愛子氏、Medical に丸山晴久氏を推挙する。ORC Congress には、植松眞氏、小林昇氏とするとの発言があった。

#### 7) 平成 28 年度環境キャンペーン補助金（暫定案）

永井環境委員長から資料に基づき、平成 28 年度環境キャンペーン補助金（暫定案）について報告があった。

平成 28 年度環境キャンペーン補助金は、本年 7 月頃にスポンサー支援額が確定予定のため暫定案としている。支援金確定後に JSAF ホームページに掲載するとの発言があった。

芝田新環境委員長から、2020 年に向けて環境委員会の役割は大切と理解している。海の環境を通して、ジュニアセーラーの教育、普及に努めていきたいとの挨拶があった。

#### 8) 平成 28 年度メンバー登録数（5 月 31 日現在）

大村事務局長から資料に基づき、JSAF メンバー登録数実績について報告があった。平成 28 年度メンバー登録（5 月 31 日）で合計 6,277 名との発言があった。

#### 9) 平成 28 年度臨時第 1 回理事会議事録（案）

大村事務局長から資料に基づき、平成 28 年度臨時第 1 回理事会議事録（案）について報告があった。

#### 10) その他

①安藤正雄事業開発委員長から、日の丸セーラーズオリジナルポロシャツならびに新 JSAF ピンバッジが完成したとの発言があった。

②森理事から、前回理事会で倫理委員会報告に伴い処分された鈴木國央氏について、指導者としてのレベルは高く、早めの復帰を期待したいとの要望が中部水域の総意としてあった。

齋藤常務理事から、違法行為ではないので、プロセーラー的な活動を行っていくこ

とになるであろうとの発言があった。

- ③大村事務局長から資料に基づき、World Sailing の邦文中での表記（案）について報告があった。ISAF から World Sailing に名称が変更になったことにより、邦文中の表記は、「World Sailing」「World Sailing（国際セーリング連盟）」とするとの発言があった。
- ④大村事務局長から資料に基づき、長崎県連、和歌山県連および外洋湘南の役員等の変更について報告があった。

平成 28 年度通常（第 1 回）理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 28 年 6 月 18 日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 相 澤 孝 司

議事録署名人 理 事 平 井 昭 光

副 会 長 中 川 千 鶴 子

副 会 長 桑 原 啓 三

専 務 理 事 鈴 木 修

常 務 理 事 斎 藤 渉

常 務 理 事 坂 谷 定 生

監 事 斉 藤 威

監 事 児 玉 萬 平

監 事 上 野 保